

習志野市

NARASHINO City

あしたのハーモニーが響くまち



習志野市長 宮本 泰介

「美爆音」がアルプスから響き渡り、選手たちが黒土の上で躍動しました。昨年、春夏連続で甲子園に出場した習志野市立習志野高校野球部。同時に、バトン部などと共に応援する吹奏楽部の演奏は美爆音と称し、全国に習志野の名を広めました。なお本校の生徒は、県内広域から通学しています。

毎年全国コンクールで活躍する、習志野高校の吹奏楽部や市立小中学校の吹奏楽部・管弦楽クラブが奏でる音色、高い音響性能とパイプオルガンを誇る習志野文化ホールなど、習志野市は音楽が身近です。また、渡り鳥が休息するラムサール条約登録湿地「谷津干潟」や、テレビ番組の企画で池の水を全部抜き、澄んだ水面が戻った森林公園などの自然もあります。平成30年に制定したブランドメッセージ「あしたのハーモニーが響くまち」は、こうした市民生活と自然環境が至近で調和し、誰もが音楽に親し

む住宅都市を象徴するキープレースです。

県内54市町村のうち4番目に小さい面積、3番目に高い人口密度というコンパクトな習志野市には、5つの鉄道路線と7つの駅があり、いずれかの駅から2km圏内にすべての住宅地が含まれます。また、公共交通機関で東京駅へ最速28分、成田空港へ35分、羽田空港へ45分でアクセスでき、物流の面では、東関東自動車道、京葉道路の2本の自動車専用道路が市内を横断する立地から、近年ではロジスティクス施設の進出が顕著な、交通便利性の良好な都市です。

習志野の名は、明治天皇が「習志野原」と命名したとされる陸軍の演習場に由来します。現在の本市にあたる地域には、明治期に騎兵連隊、鉄道連隊が置かれ、軍郷として発展。戦後、これらの広大な用地が学校や公共施設等に姿を変え、周囲は宅地化が進行しました。反面、無秩序な開発と環境悪化を招いたため、昭和45年、都市と自然との調和、市民が健康で豊かに生活できるまちをめざし「習志野市文教住宅都市憲章」を制定。今日まで半世紀の間、習志野市の行政計画における最上位かつ不変の基本理念となっています。



■平成31年春のセンバツ甲子園の応援風景

習志野隕石、降る

宇宙から習志野市に隕石が降ってきました。国内で確認された隕石としては53番目、落下推定エリアが特定され、そのエリアから実際に発見されたのは国内で初めてで、世界的にも事例の少ない、たいへん珍しい隕石です。

今年の7月2日未明、関東地方上空を西から東へ流れる大火球が多数目撃されていました。その落下角度や方位などから習志野市を含む千葉県北西部が落下推定地域と特定され、習志野市内のマンションから見事に2片の隕石が発見されたのです。

その後、船橋市内からも、元は同じ隕石だとみられる破片が発見されています。国立科学博物館がこれらを隕石と確認し、「習志野隕石」という名で国際隕石学会に登録申請をしています。

落下した軌道がわかっていて、これらの隕石がどの小惑星から飛んできたのか特定でき、様々な研究に貢献することが期待されているとのこと。広い宇宙の中の小さな千葉県に降ってきた奇跡の、今後の展開に期待しています。



■仮称習志野隕石（画像提供：国立科学博物館）

公共施設再生計画



■「プラッツ習志野」北館の一部（新築部分）

昭和30年代後半から40年代に人口急増期を迎えた習志野市は、昭和40年代から50年代前半にかけて公共施設が数多く建設されました。近年それらの老朽化が問題になり、今後のコストを分析したところ、現在と同じ規模や機能のまま全ての施設を更新することは、財政的に困難であることが明らかになりました。

そこで、施設の長寿命化や集約化・配置適正化を徹底的に図ることで行政サービス全般のパフォーマンスを高め、持続可能な運営体制に再編する取り組み「公共施設再生事業」を、平成26年から実施しています。

モデル事業として、京成大久保駅周辺に点在していた8つの施設を3つの建物に、建て替え・リノベーションにより集約化し、今年7月「プラッツ習志野」として全館オープンしました。民間の資金とノウハウを活用し、公共施設の建設・改修、管理・運営を行うPFI手法を、複数施設で一体的に導入した先駆的で、注目を集めています。

習志野市データ 市役所/〒275-8601 千葉県習志野市鷺沼2-1-1 TEL/047-451-1151(代表) ホームページアドレス <http://www.city.narashino.lg.jp>



習志野市マスコットキャラクター ナラシド



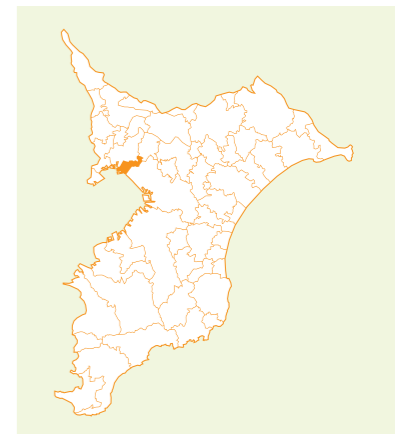
市章

習志野市を象徴する紋章を広く一般から募集し、第1位に入選した竹村熊次郎氏の図案(習の字をデザイン化)を選び、習志野市の紋章として昭和30年(1955)年8月1日に制定しました。

人口世帯数

人口 175,109人
男性 87,166人
女性 87,943人
世帯 81,694世帯

2020年8月末現在



「奏の杜」地区開発・鷺沼地区開発

JR津田沼駅南口から徒歩3分の一等地に広がっていた約35haの畑を開発してできた新しいまちが「奏の杜」です。

地権者によって平成19年に設立された土地整理組合により開発が進められ、平成25年にまちびらきが行われました。戸建て住宅、集合住宅、商業施設、公園、集合農地等がゾーンを分けてバランスよく配され、電線を共同溝に埋設し、公共物のデザインを統一するなど、景観にも配慮されたまちには、現在約8千100人の市民が暮らします(令和2年8月末現在)。

これから新しいまちが期待できる地区は、JR総武線・京成千葉線幕張本郷駅から徒歩約6分、京葉道路の幕張インターチェンジからも至近に位置する鷺沼地区です。この43haの市街化調整区域では、土地所有者の意向により昨年8月、土地整理組合設立準備会が組織されました。今後、市と共に行われる新しいまちづくりが本格化していきます。



■奏の杜地区のまちなみ

習志野市は、半世紀にわたる文教住宅都市の理念を未来へ受け継ぎ、これからは市民の豊かな生活環境づくりに注力していきます。